

日伯交流協 設立10周年

中区で記念式典

日伯交流協会は11日、設立10周年記念式典を浜松市中区の静岡文化芸術大で開き、同大副学長の池上重弘理事が「日本のブラジル

人コミュニティ—この10年と今後の課題」と題して講演した。

池上理事は1988

池上理事らが200

年からの30年間で、国内の在留外国人数が2・5倍増加して約250万人になったこと

や、県内の外国人の4分の3が、居住や就労

に制限がない在留資格を持つことを紹介した。

た。

池上理事らが200

9、15、16年に県内ブラジル人に対して行った調査結果も示した。

50〜60代人口が約5・7倍増加し、日本に永住する意思を持つ割合

が約2割増えている状況を踏まえ、「ブラジ

ル人らが介護などの労働市場から撤退し、介

護される側になる。どう対応していくかが大きな課題になる」と指

摘した。



日本のブラジル人コミュニティについて講演した池上理事＝浜松市中区の静岡文化芸術大